

■ 本文

和泉式部、保昌が妻にて、丹後に下りけるほどに、京に歌合ありけるに、小式部内侍、歌詠みにとられて〔①〕詠みけるを、定頼中納言たはぶれて、小式部内侍、局にありけるに、「丹後へつかはしける人は参りたりや。いかに心もとなくおぼすらむ。〔②〕」と言ひて、局の前を過ぎられけるを、御簾より半らばかり出でて、わづかに直衣の袖をひかへて〔③〕、

大江山 いく野〔④〕の道の遠ければまだふみ〔⑤〕もみず天の橋立と詠みかけけり。思はずに、あさましくて〔⑥〕、「こはいかに、かかるやうやはある。」とばかり言ひて、返歌にも及ばず〔⑦〕、袖を引き放ちて逃げられけり。小式部、これより歌詠みの世に覚え出で来にけり。

■ 設問 (全22問)

1. 次の語句の、本文中での読みをひらがなで答えなさい。

「歌合」

「直衣」

「御簾」

2. 傍線部①「とられ」を、文法的に説明しなさい（もとなる動詞・活用の種類・活用形と、付いている助動詞の意味・活用形）。

3. 傍線部②「丹後へつかはしける人は参りたりや。いかに心もとなくおぼすらむ。」を現代語訳しなさい。

4. 傍線部②について、次の問いに答えなさい。

「つかはし」とは、ここでは誰が誰のもとへ、何のために人を「つかはし」たというのか、説明しなさい。

「心もとなく」の、ここでの意味を答えなさい。

5. 傍線部②「……参りたりや。」の「や」も係助詞である。この「や」の意味（疑問・反語の別）と、それによって文がどのような調子になっているかを答えなさい。

6. 「過ぎられけるを」・「逃げられけり」の「られ」は、いずれも同じ意味の助動詞である。その意味（用法）を答えなさい。

7. 傍線部③「ひかへ」を、文法的に説明しなさい（動詞の活用の種類と活用形）。

8. この和歌には、「いく野」「ふみ」のほかに、丹後の名所である「天の橋立」が詠み込まれている。小式部内侍はこれらの地名を詠み込むことで、何を示そうとしたのか。和歌全体の趣旨をふまえて説明しなさい。

9. 傍線部④「いく野」は掛詞である。掛けられている二つの意味を、それぞれ答えなさい。

10. 傍線部⑤「ふみ」は掛詞である。掛けられている二つの意味を、それぞれ答えなさい。

11. 語句「あさまし」の、ここでの意味として最も適切なものを次から選びなさい。

- ア あさはかだ
- イ 意外で驚きあきれる
- ウ みすぼらしい
- エ 情けない

12. 傍線部⑥「思はずに、あさましくて」について、誰が、どのようなことに対して、どのような気持ちになったのかを説明しなさい。

13. 本文中の「こはいかに、かかるやうやはある。」について、次の問いに答えなさい。

係助詞を一つ抜き出しなさい。

その係助詞は、文末をどのような活用形で結んでいるか（係り結び）。結びの語とその活用形を答えなさい。

この「やは」は、疑問・反語のどちらの意味か答えなさい。

14. 傍線部⑦「返歌にも及ばず」とあるが、定頼中納言が返歌をしなかった（できなかった）のはなぜか。簡潔に説明しなさい。

15. 本文の最後「小式部、これより歌詠みの世に覚え出で来にけり。」とは、どういうことか。「覚え」の意味をふまえて説明しなさい。

16. 和歌「大江山いく野の道の遠ければまだふみもみず天の橋立」を、掛詞の二つの意味が両方わかるように現代語訳しなさい。

17. 語句「たはぶる」の、ここでの意味として最も適切なものを次から選びなさい。

- ア いたわる
- イ からかう・ふざける
- ウ あわてる
- エ うらやむ

18. 定頼中納言は小式部内侍をどのようなことでからかったのか。本文に即して説明しなさい。

19. そのからかいに対して、小式部内侍はどのように応じたか。本文に即して説明しなさい。

20. この話を通して、小式部内侍はどのような人物として描かれているか。簡潔に答えなさい。

21. 【文学史】『十訓抄』について述べた次の文の空欄に適語を入れなさい。

『十訓抄』は（ A ）時代に成立した（ B ）集で、年少者に（ C ）を説くことを目的として、教訓ごとに古今の説話を集めたものである。

22. 【文学史】次のうち、『十訓抄』と同じ「説話集」に分類される作品を一つ選びなさい。

- ア 古今和歌集
- イ 源氏物語
- ウ 宇治拾遺物語
- エ 枕草子